

生死の境を彷徨して

藤本勇です。

健康診断の一つである MRI 検査で心臓の周りに水が溜まっているとの判定が下されて 8 月 23 日に明石市立市民病院に入院しました。

入院して 3 日後手術を受ける。溜まっていた水は茶色い液体で 400cc ほどありました。

その翌日から 40 度の高熱が出ました。原因は食べたものが肺に入って高齢者特有の「誤嚥性肺炎」になりました。高熱の間は意識が朦朧としていました。黒い人影が大勢いました。あれが冥土の入り口だったのかと思う。

あとで主治医の先生曰く。

「藤本さんの生命力や生きる意欲で生き返った」と申された。

すぐに水分と薬剤が点滴で行われた。また鼻から胃袋に細いチューブがセットされ、それを通じて栄養剤が注入される。まったく味もなにもない。

胃婁の人の苦勞が分かる。点滴は 2 日おきに腕を変えて打たれた。

9 月 9 日から刻み食事に代わり、鼻のチューブも外された。三度三度の嚥下障害のための食事をだまって食べる。一番苦勞したのは水やお茶が飲めず口が乾き、小さなスポンジに水を含ませて口の中を湿らす程度では喉の乾きを癒すことはできない。

またリハビリテーションが始まった。入院時にはあまり歩けなかったのが、休み休みだが 200m ほど、歩行器を使って歩けるようにまで回復した。

入院中に 8kg も痩せた。わが人生で短期間に 8kg も痩せるのは初めてである。子供のころに言っていた「骨皮筋右衛門」を地で行く。

今回の入院で一番役に立ったのが携帯電話同士の通信でした。これはメールアドレスが携帯電話の番号を使う。個室に入ったが息子や娘は昼間は仕事をしているので電話は出来ない。電話会社がサービスしてくれているのは SMS サービスというものです。

1 通は 70 文字。料金は発信者のみ負担で 3 円。普段お元気な皆様でも事故でもない限り、必ず病院に入院するものです。そのために平時に家族間でこの SMS サービスを使って練習してください。

9月18日に退院したが、病院と同じで刻み食が続いている。こんな食事がいつまで続くことやら。

退院して真っ先に家内の部屋に行く。いつものように笑顔で迎えてくれたが、痴呆が進み私が誰であるか分からない。

しかし、これで安心した。いつでも先に逝っても悲しまないのが分かった。

退院時の写真を添付します。



<押し寄せたお見舞いのメールに回答されました。>

早速のご返事ありがとうございました。

そして暖い励ましのお言葉を頂戴し、本当にありがとうございました。

今回は「九死に一生」を得ました。これからは一日でも長生きできるように日々の生活に注意して暮らします。特に飲食をする際には注意し、病院生活でバランスが悪くなり転倒しやすくなりましたので、行動にも注意します。

コロナが落ち着いて昔のように歩けるようになりましたら、明石にまで足をください。

お待ちしております。

藤本 勇